

# 大分県立庄内屋内競技場 将来ビジョンについて

施設の今後のあり方

**存続**  
**(利活用)**

- ①ライフル射撃競技の全国大会など大規模な大会が開催可能な九州屈指の施設であり、当施設を利用する高校射撃部は全国大会上位入賞を果たすなど、ライフル射撃競技の競技力向上に大きく寄与している。
- ②日本代表の世界大会に向けた合宿利用など、ライフル射撃競技の重要な施設となっている。

目指すべき  
施設像

- ①県内のライフル射撃競技の拠点として、競技力向上に寄与できる施設
- ②ソフトテニスなど他スポーツでの活用を含めた多様な活動ができる施設

目指すべき  
利用者像

- ①ライフル射撃競技愛好者及び全国大会・オリンピック出場を目指す個人・団体
- ②地域のスポーツ団体及びスポーツ愛好者

定量的目標  
達成指標

- ①年間利用者数の増 (過去3年平均：6,552人/年)  
7,800人/年 (参考R1実績：7,379人/年)
- ②ライフル射撃競技の利用者数の増  
①のうち6,000人/年 (過去3年平均：4,741人/年)  
(参考R1実績：5,161人/年)

定性的目標  
達成指標

- ①ライフル射撃競技の認知度向上のために、普及啓発に取り組むとともに、国の代表チームや有力大学の合宿誘致等を推進する。
- ②ライフル射撃で利用されない時間を有効活用し、ソフトテニスなど他のスポーツでの利用を推進する。

## 主な課題と解決策

### 【課題】

- ①認知度の低さや、「危険」というネガティブなイメージがあり、競技参加のハードルが高い。
- ②大規模な大会の開催のためには基準に適合した設備が必須であるが、施設・設備の老朽化が進んでいる。
- ③専用施設であるという特性及び立地などから、民間事業者の受託が難しい。

### 【解決策】

- ①実弾を使用しないビームライフルなどの、安全性の高い競技の周知を行う。ライフル射撃協会や県内高校ライフル射撃部による競技体験を実施するなど、競技参加の機会を提供する。
- ②電子標的の維持・拡充や照明器具の改善などに取り組む。あわせて、令和2年度から日本ライフル射撃協会主催で開催しているオンラインでの大会などを推進するため、インターネット環境を向上させる。
- ③民間のノウハウを活用してサービス向上を図るという指定管理者制度の趣旨を十分反映できず、他の管理方法を含めて検討を行う。